昭和５３年９月８日開催幹事会議事録

日　　時　：　昭和５３年９月８日１３時３０分ー１５時３０分
場　　所　：　気象庁観測部会議室
出 席 者　：　横山、久保寺、城野、渡辺、神沼、大野（気象庁）
　　オブザーバー：斉藤（国土庁）、三宅（気象庁）
　　庶　　務：吉留、永福、小宮

下鶴幹事欠席のため久保寺幹事が座長を勤めた。まず渡辺幹事から「有珠山の噴火活動は依然活発であるが、噴火後１年以上経過した時点で活動状況と観測班の措置について話し合いを願うために本幹事会を開催した」旨の説明があった。

1. 有珠山の火山活動について

大野幹事代理：表面活動状況、地震回数・有感回数推移、火口原内火口分布、地震放出エネルギーについて

横山幹事：火口の活動状況

- ６月２日からＩ火口でときどき見られる火映については、私見では高温ガスの噴き出しによると思われ、Ｉ火口自体の隆起はごく小さいのでドーム出現に発展するとは考えられない。
- ７月９日以降の噴火・噴出に微動を記録するようになった。
- ８月１３日までは１～２時間おきに噴火をくり返したが、８月２４日以降は２～３日おきに比較的大きな噴火をおこすようになった。

８月２４日未明の噴火

１時間続き最後の１０分間に火柱、赤熱岩塊が遠望され人頭大の軽石が南外輪駐車場まで飛びＮＨＫテレビ小屋（飛距離５００ｍ）も破壊された。マグマ本体の表面部分を飛ばした可能性がある。噴出物の発泡はよくない。

討論

城野幹事：熱雲の可能性は？

横山幹事：まずないであろう。マグマ自身で爆発を起こす力はない。
８月２４日の噴火で火柱が出て熱雲がなかったことは結果論ながら安心材料と受けとめている。

城野幹事：表面活動はどのくらい続くか。

横山幹事：よくはわからないが、８月中旬以降の活動パターンの変化とＩ火口の活動が２か月半で終息したことを注目している。

城野幹事：秋雨前線の影響は？

横山幹事：雨量と爆発とは札幌管区気象台によれば、直接的に関連はないということである。

城 野 幹 事：降灰被害はいまのところ軟弱野菜が中心である。昨年の噴火後除灰しなかった所も豊作だと聞いている。

横 山 幹 事：雪になれば農作物の被害は少なくともなくなる。

大野幹事代事：マグマ水蒸気爆発は「水蒸気爆発の一種で、若干のマグマが入ったもの」とした方がよいと思う。

久 保 寺 幹 事：総括

2. 総合観測班の今後の措置

- 表面活動が落ちこめば完全終息でなくても解散はあり得る。それまでは事務局は存続する
（大野幹事代理）
- 観測体制の充実が前提となるのではないか（久保寺幹事）
- 北大観測所は９月竣工の予定である（横山幹事）
- 室蘭地方気象台の臨時観測は今後も継続し、時期をみて恒久観測施設に切替える
（大野幹事代理）
- 本庁引揚げ後は室蘭地方気象台が引継いでもよいのではないか（横山幹事）
- １０月２３日の連絡会で集中観測の成果をふまえ、状況によっては、結論が出せるかも知れない
（久保寺幹事・他）
- 現地災対もタイミング待ちである（城野幹事）

3. そ の 他

他火山の活動状況について